PIA

2024 年 8 月（3 週間）/ 国際文化学科 1 年

# 自ら行動すること！
# 自分の身は自分で守ること！
# 自分の行動の責任は自分で取ること！

**【学修成果】**

自ら話しかけること、行動することの大切さについて学び、積極的に行動する力を身につけることができました。プログラムの一環で、ポートランドのダウンタウンで街の人にインタビューを行うという取り組みがありました。知らない土地で知らない人に話しかける大変さを感じながらも、人と話す楽しさも学ぶことができました。このことから、自ら話しかけなければ何も始まらないということを学びました。私は今まで一歩踏み出す勇気を出すことが出来ませんでしたが、今回のプログラムを通じて多くの人と話をし、積極的に行動することが出来るようになりました。

**【生活面】**

留学生活で学んだことは、ホームレスや低所得者に向けた取り組みについてです。ポートランドには日本以上にホームレスが多くいました。私のホームステイ先の近くの道に冷蔵庫が置かれており、気になってホストファミリーに質問をすると、ホームレスのための食料が入っていることを教えてもらいました。私の偏見として、アメリカ人は冷たい人だと思っていましたが、実際には人のことも考え、優しさに溢れている人が多いということが分かりました。

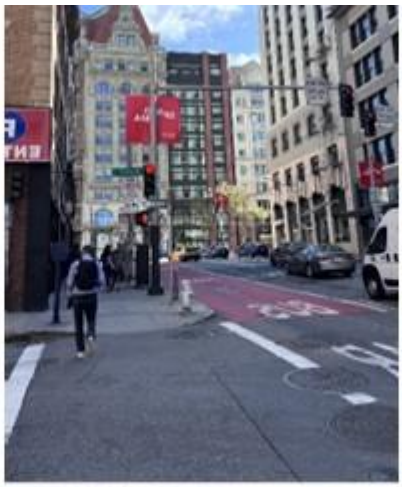
**【安全面】**

ホームレスの多さ、薬物を行っている人の多さに驚きました。そのため、夜 9 時過ぎには一人で出かけず、9 時以降に外出する際にはホストファミリーと一緒に出かけるようにしていました。また、ドラッグを使用している人やホームレスには近づかないようにしていました。

**【感想】**

今回の留学生活で学んだことは、自ら行動する、自分の身は自分で守る、自分の行動の責任は自分で取るという 3 点です。自ら行動しなければ何も始まらない。一歩を踏み出す勇気をもつことが最も大切なことだと学びました。しかし、知らない土地で行動するということは今まで危険なことから守ってくれていた家族や学校の人はいないということです。そのため、自分の身を守るのは自分しかいないという自覚を持ち行動をしなければなりません。そして、自分の行動の責任は自分で取ることも大切なことだと感じました。自分で決めたこと、自分で始めたことの行動の責任を取るのは自分自身です。

# 海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科2年



## アメリカ・サンフランシスコで3週間の低所得者支援のボランティアに参加しました！

**【プログラム】**

ボランティア活動は主にパンにピーナッツとジャムを挟んで袋に詰める作業や低所得者への食糧配布、低所得者や障がい者への食事提供でした。ボランティアを通じて、生活していくために家賃などは必須であるため、食費を抑えるという低所得者の現状・背景があるのではないかと感じた。アメリカでは貧困の差はあるが、お金を持っている人が貧しい人を支えていくという文化が根付いていることが分かりました。

**【生活面】**

アメリカでは「Yes」「No」をはっきり言うことが必要であることを学びました。ホストファミリーにもはっきりとした意思表示をしなかったために、「一緒に出掛けたくないのか、意見がないのかと思った」と言われてしまいました。ほろ苦い経験ではあったが、この経験からはっきり意思表示を示していくことがアメリカでの良好な関係の築き方であると学びました。また、日本人のように断ったことを引きずるのではなく、柔軟に物事を捉えているなという異文化の違いを感じました。

**【安全面】**

公共交通機関に乗っている時だけでなく、街を歩いている時も常にバッグや身の回りの物は目に入る範囲（身体の前）に置くよう意識していました。また、毎回バス利用だったので、常にバスの前方、人が多くて立たなければいけない場合は運転手の真横にいました。街にいる人を見ても派手な格好や露出が多い服を着ている人はほとんど見受けられなかったため、目立たないということは大事であると感じました。街では暴言を吐いたりしている人がいたが、目を合わせないようにしていました。

グーグルマップなどのアプリを使って目的地まで行こうとすると、細くて人通りの少ない道を誘導してくることがあるため、遠回りになっても人通りの多い大きい道を行くようにしていました。

**【感想】**

生まれ育った国・環境が違えば様々な考え方や暮らしをしている人がいるということを実際に目で見て、関わって、感じることができました。ボランティア活動を通じて、自分は人と関わることが好きで、自分のしたことが誰かの喜びに変わり、それを言葉にしてもらい、受け取るということにやりがいを感じ、好きであることが分かりました。看護師になっても、その気持ちを忘れず、たくさんの人に喜びを届けられる看護師になりたいと思います。

# 海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科1年

## アメリカ・サンフランシスコで3週間の日本語教師のボランティアに参加しました！

**【プログラム】**

「日本語を教える」ということは、一見看護とは全く関係がいないように見えますが、このプログラムを通じて看護に通じる「人との関わりかた」を身につけることができました。例えば、集中して授業を受けられない学生とどう関わるかと考えたり、個々の能力に応じた課題を出したりすることも求められました。アメリカは日本よりも「自己主張」をする国であるため、「したいこと」と「したくないこと」を主張する生徒が多かったように感じました。学校に慣れてくると、先生たちから頼まれる仕事も多くなり、毎日が充実したボランティア活動をすることができました。

**【生活面】**

アメリカの文化の特徴として、移民の街が形成されている、多種多様な食事を楽しめる、自分の意見や意思をはっきりと口にすることだと思いました。

外食の際にも日本との違いを体験しました。チップは食事の代金に対して 15%～20%程度を払わなければならず、飲酒年齢も21 歳からと日本と違いました。また、支払いはクレジットカードが主流で、店舗によってはクレジットカードによる支払しか受け付けていないお店もありました。

学校生活においても、年度の始まりの時期の違いや、学年の呼び方の違いがありました。小学校 1 年生から高校年生までを通じて 1 年生、2 年生、…12 年生と言うそうです。

交通に関しても、車が右側通行であったり、赤信号でも右折可能であったり、スクールバスが最優先であったり、様々な相違点がありました。

**【安全面】**

多くのホームレスがいました。通りを 1 つ間違えただけで多くのホームレスがいて急に治安が悪くなることもありました。ひったくりやスリといった軽犯罪の発生率も高いため、必要以上に大きいバッグを持たず、荷物は自分から離さないようにしていました。以下に日本が安全で豊かな国なのか改めて感じました。

**【感想】**

ボランティア活動やアメリカ生活をして学んだことは「人との関わりかた」です。みんなが同じ文化的背景を持っていないことを理解し、相手は今どう感じているのか、自分はこれから何をすべきなのか、これからもっと多くの人と関わって、活動を通して得た力を活かしていきたいです。

# 海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科4年

## アメリカ・サンフランシスコで3週間のチャイルドケアのボランティアに参加しました！

**【プログラム】**

今回、Chibi Chan Tooという日系の保育園で3週間のボランティアに参加しました。日本の保育園でアルバイトをしていることから子どもの扱い方には慣れている方だと思っていましたが、幼児の英語を理解するのが難しかったり、子どもが人見知りをしたりして、始めは日本の子どもよりもコミュニケーションを取ることに時間がかかりました。しかし、その保育園では「子どもを尊重した関わりをすること」を大事にしており、一人ひとりにあった遊びの提供や、自己肯定感を上げるような声がけを意識することで、最終週には現地の保育士の方と同じように子どもが関わってくれるようになりました。

**【生活面】**

最初に行った観光場所が「カストロ」というLGBTQの街として有名な所でしたが、全裸の男性が店の中を自由に出入りしていて、それに周りの人も動じていないことに驚きを隠せませんでした。日本では絶対に有り得ない光景で、自由の国だな、ということをひしひしと感じました。ホストファザーからは「あの街はお互いがお互いのことを分かり合っているからこそ、犯罪が起きずに治安がいい場所なんだよ」ということを教えてもらい、知らず知らずのうちに偏見を持ってしまった自分が恥ずかしくなりました。

**【安全面】**

治安が悪い場所（ホームレス街）などは特に悪かったです。治安が悪い地域にある学童にボランティアに行った際、公園に行く道でもホームレスの人が騒いでいたり、ゴミが至る所に落ちていました。通るだけでもビクビクしてしまうような道を子ども達は何も動じずに歩いており、その環境が当たり前になっているのだということに気づきました。簡単に薬物が手に入りやすいことや不衛生な場所で生活するなど、環境が人を変える要因となりうるため、悪循環な環境だと感じました。

普段の生活では、バスでは絶対に寝ない、服装や持ち物から観光客とバレないようにする、夜は外出しないなどを徹底しました。

**【感想】**

保育園や学童でのボランティアだけでなく、社会人交流会や観光を通じて、日本の文化や考え方を見直すきっかけとなりました。3週間という短い間で自分が成長したと感じる部分は少ないですが、物事の考え方を深めることが出来ました。今回学ぶことが出来たお互いの国のいいところを取り入れながら生活してくことが、これから私が行っていくべきことではないかと考えています。

# PIA

2022 年 9 月～2023 年 2 月/英語学科 3 年

## たくさん泣いたりもしたけど、そのぶん強くなりました！帰る時は寂しさでたくさん泣きました。

**【プログラム】**

最初の 2 か月半は英語の授業と Service Learning（Stage 1）があり、2 週間ほどの休みの後 Service Learning（Stage 2）が始まり、再度 2 週間ほどの休みの後 Service Larning（Stage 3）がありました。

英語の授業では、先生がとてもクリエイティブな方だったので、英語科教育法を学ぶ私にとっては、英語だけではなく、授業に関することも一緒に学んでいけました。

Service Learning の Stage 1 では、アメリカの履歴書の書き方、ビジネスメールの書き方、面接など、アメリカで仕事をするために必要なことを学びました。

Stage 2 では、アメリカの文化やボランティアとは何かについて学びました。そして、自分のボランティア先を知るという目的でプレゼンテーションも行いました。授業日数は長くはありませんでしたが、学ぶことがたくさんありとても楽しかったです。

Stage 3 では実際にボランティア先で活動をします。ボランティア先は 2～3 か所選ぶことができ、6 週間で合計 116 時間のボランティアを行います。私は、International School、Playschool、High School でボランティアをしました。

**【生活面】**

ホームステイ先には、ホストマザーとサウジアラビア人のルームメイトと猫がいました。ホストマザーがベジタリアンだったので、最初は不安でしたが、最後はすっかり慣れて、マザーのご飯が大好きになっていました。マザーとルームメイトの 3 人で話をしたり、買い物に行ったり、料理をしたり、とても楽しかったです。

10 月から 6 月までは雨期なので、そのせいか疲れやすかったり、気分が沈んだりしました。

**【安全面】**

治安はアメリカの中ではよい方かもしれませんが、日本と比べると怖いと感じる場面はよくありました。ホームレスからお金を要求されたり、マザーの車の窓が割られたこともありました。

**【感想】**

書ききれないほどの多くの経験をしてきました。留学の目標にしていた、英語力を伸ばすこと、挑戦すること、教育現場を見ること、全て達成できて心残りはありません。また、英語に関心を持ってもらい、異文化に理解がある子供を育てられる教員になるという新しい目標もできました。留学して強くなったので、きっとできると信じています。これからも挑戦を辞めることなく頑張っていきます。

# PIA

2022 年 9 月～2023 年 2 月/英語学科 3 年

## この留学を通じて、自分らしく生きること、本当にしたいことをじっくりと考えることの大切さを学びました。

**【プログラム】**

18 週間（4 か月半）のプログラムに参加しました。

始めの 10 週間（1 ターム）は、英語の授業とサービスラーニングの授業がありました。英語の授業は、Grammer、Reading、Writing、Listening & Speaking がありました。サービスラーニングの授業では、ボランティア先を決め、ボランティア先に送るカバーレターと履歴書を作成しました。ボランティア先は、迷ってしまうほど様々なジャンルがあったので、とてもワクワクしながら決めたのを覚えています。履歴書をボランティア先に送り、その後は面接を受けに行きました。面接を受けるためにボランティア先に向かっている時間が留学期間中で一番緊張していた瞬間でした。

始めの 10 週間が終わり、ここから 2 週間は完全にボランティアについての授業だけになります。ボランティアについて、日常会話のフレーズ、アメリカの文化について学び、自分がこれから行くボランティア先がどんなところなのかを発表したりもしました。

最後の 6 週間は、ついにボランティア活動です。基本的には、自分が決めた 2 つのボランティア先で 1 週間に 20 時間以上活動し、終了時に合計 120 時間以上の活動をしていればプログラムは終了となります。毎週末に 1 週間の活動についてのレポートを提出していましたが、それ以外は学校に行かず、ひたすらボランティア活動をしていました。ボランティア先には日本語が通じる人が 1 人もおらず、自分にとって毎日大きなチャレンジばかりでしたが、こんな経験は本当に貴重なので、一生懸命色んな人に話しかけて会話を楽しみました。

**【生活面】**

行くまでは色んな不便を想像していましたが、実施に行ってみると、そこまで不便を感じることはありませんでした。ただ、アメリカ人の食への意識が日本と少し違うところがあり驚きました。食べ物の扱い方（無駄にしない）、食事の仕方などから、アメリカ人は日本人ほど食に重きを置いていないようにおもいました。文化の違いで驚くこともありましたが、「そういうものなのかー。」ぐらいの気持ちで受け止めれば、悩んだりすることはなかったです。

**【安全面】**

ポートランドで気をつけることは、とにかくホームレスの人たちだと思います。別の州から来たアメリカ人も驚くほど、ポートランドにはホームレスが多く、大きな問題のようです。ほとんどの人は何もしてきませんが、クスリをやっていて行動の予想がつかない人もいるので、行動がおかしい人がいたら、遠回りをしてでも避けて通っていました。

**【感想】**

留学生活を通して、新しい考えや、やってみたいことがこれまで以上に明確になった気がします。留学で得たスキルを精一杯生かして、自分の意見や考えを自信をもって言える人になりたいです。

# IUPUI

2022 年 8 月～2023 年 5 月/英語学科 4 年

## この経験を生かして、自分のコンフォートゾーンを抜け出し、自分をより成長させられることに挑戦していきたい。

**【学習面】**

Fall Ⅰ と 2 は PIE の Program of Intensive English を受講した。初日のテストでレベル分けが行われ、レベル 4 からのスタートとなった。朝 8:50 に最初のクラスが始まり、最後のクラスは 2 時過ぎに終わるスケジュールだった。IUPUI の正規の授業を受けるためには、PIE のレベル 5 を修了する必要があったため、Fall 2 までにレベル 5 を修了し、Spring Ⅰ からは IUPUI の正規の授業を受け始めた。

IUPUI の正規の授業では、Fundamental of Speech Communication、Mass Media and Contemporary Society、Multicultural Education and Global Awareness、Religion and Culture、Yoga を履修した。

**【生活面】**

Fall の間は、ホームステイをしていた。特に印象に残っているのは、Thanksgiving と Christmas である。Thanksgiving ではホストファミリーの実家に行き、親戚たちと食事を囲んだ。Thanksgiving に向けてスーパーなどの商品が変わっていくのを見るのも楽しかった。Christmas はただの休日として考えているのではなく、イエスキリストのことをもう一度考え、学びなおす機会だということを知った。

Spring からは International House という学生寮に移った。ここでは世界中から来ている人と知り合うことができ、各国の料理を振る舞い、とても楽しく異文化交流ができた。

授業外では、たくさんのイベントに参加するように心がけて、誘われたら基本的には参加するようにしていた。

**【安全面】**

夜一人で歩くことができないのはとても不便だった。キャンパスに夜遅くまで残った場合は、寮まで送ってくれるシステムをよく利用していた。ホームステイ中はバス通学していたが、バスの中も治安が必ずしも安全とは言い切れなかった。

**【感想】**

この留学を通して、今まで自分がどれだけコンフォートゾーンで生きていたのかを実感した。また、現地の大学生たちをみて、自分よりも自立していて、自分の人生を自分事としてきちんと考えていると感じた。もっと自分中心に物事を考えて、行動したり、プランを立てたりしていいのだということを学んだ。